



片柳中学校だより

片柳

第13号 令和6年3月26日発行
さいたま市立片柳中学校
さいたま市見沼区大字御蔵551
TEL048-683-3173

<学校教育目標> 夢をはぐくむ学校 ○自ら学ぶ生徒 ○心豊かな生徒 ○心身を鍛える生徒

春本番の季節へ

校長 加藤 明良

先日の第77回卒業証書授与式では、卒業生74名がそれぞれの進路に向かって巣立っていきました。地域の方々をはじめ多数のご来賓の方々から3年生の立派な態度や全校生徒の歌声など多くのお褒めの言葉をいただきました。素晴らしい先輩たちの姿を見た在校生の皆さんは、しっかりと片柳中学校の伝統を受け継ぐとともに、さらなる活躍を期待したいと思います。

さて、自然豊かな片柳中学校の周辺ですが、学校の敷地内にも多くの自然が残されていることをみなさんは知っているでしょうか。まずは、春といえばフキノトウです。西側のフェンス際に毎年2月になると芽を出します。このフキは夏になると大きく成長し、その茎も芽と共に食べることができます。

また、校庭のあちこちにこれから咲いてくるタンポポにも特徴があります。通常市街地に咲くタンポポは外来種のセイヨウタンポポです。しかし、校庭の南側のタンポポはほぼすべて日本古来種のカントウタンポポです。以前は、外来種のセイヨウタンポポの方が春から秋まで一年中咲いていて繁殖力が強いため、カントウタンポポは絶滅してしまうと言われていました。

カントウタンポポ



総苞が上を向いている

セイヨウタンポポ



総苞が下を向いている

交雑種



総苞が上下している

最近の研究では、セイヨウタンポポはカントウタンポポとの交雑種があり、カントウタンポポの姿形を残しているものが多いという説もあるようです。校庭のタンポポに交雑種も含まれているかもしれませんが、多くはカントウタンポポの特徴を持っています。それだけカントウタンポポの生育に適した環境が残されているのではと思います。ぜひ、タンポポを見つけたら、カントウタンポポの特徴があるか確認してみてください。

そして、大きく成長した桜です。ソメイヨシノという種類で1本の標本木からさし木で作られたクローンです。私がかつて勤めていたときは、まだ半分くらいの若い木でした。おそらく樹齢50年は越えており、60年程度といわれているソメイヨシノの寿命に近づいています。台風等により枝が折れないように一昨年秋にかなり枝を切りました。老木なので今後定期的な手入れが必要です。今年は、当初の予想よりも開花が遅れており、これからが本格的な見ごろを迎えます。入学式まで何とか花が咲いていることを願いたいと思います。桜の花も学校にはなくてはならない春の風物詩ですので大切にしていきたいと思います。

保護者、地域の皆様、今年度大変お世話になりました。令和6年度も引き続き、学校へのご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。